



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692(住所記入不要)
☎0276-88-5511(代表)
☎0276-47-5007(企画課直通)
☎0276-89-0136
http://www.town.ora.gunma.jp
✉kohoswan.town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL http://www.town.ora.gunma.jp/k



第七十六回

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



県道361号線「水立(やけどち)」の交差点の南西に位置する秋葉神社。神社本殿の隣の覆堂の中には、お地蔵様が安置されています。

秋葉様

水立地区の守り神は「秋葉様」である。江戸の終わり、「焼立」地区に火事が続いたことがあった。その時、地区の有志が寄金を募り、二人の使者を駿河(今の静岡)の秋葉神社に参詣してもらい、火伏せの護摩をいただいてきて祭ったのが始まりである。

その後、秋葉神社の宮司の勧めもあり、地名の「焼立」の「焼」を水に変えれば、火事も少なくなるとのことで「水立」と書いて、読みはそのまま「やけどち」になったのだそうだ。

最初は、3月の丑の日に例祭を営んでいたが、今では3月の21日に執り行っている。氏は総数百余軒で供物をまつり、宴を開いて、お祈りしている。以前は社の前で莫塵を敷き、行っていたが、今では区の公民館を借りて、世話人さんを含め二十人位が集まり、宴を張っている。隣に地蔵様も祭られており、一緒に供物をまつり、地区の人々がお参りしている。

早乙女まかない

早乙女とは、田植えの時期にお手伝いに来てくれる人のことです。昭和36年頃のことです。

年明け2月頃になると、栃木の名草町で、農業を営む家に行き、早乙女をお願いに行つたものです。その頃になると、近所の家も競ってお願ひに行つていたので、大変だったことを覚えています。

一度お願いしていた早乙女さんが、田植えの最中に連れて行かれたエピソードなどがありました。それからは、そのようなことが無いように、毎年同じ家のかたを頼むようにして、早乙女さんを大事にして、特別に扱っていたのです。

早乙女の人は、だいたい6人で、2日間の泊まり込みで来ていました。その家の主婦は、とても大変でした。いつもは質素な食卓であるが、早乙女さんのために、いつもよりご馳走で、夜は刺身、御酒を付けて、一日の労働を労っていました。それだけ、早乙女が居ないと田植えは出来ないと言われていた時代でした。その頃の家族の食事はというと、いつもどおりの質素な食事をしていました。それ以上に主婦は、寝る間も惜しんで働いて、食事はいつも、水かけまんまでした。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
(平成20年6月28日発行「邑楽町のくらしの四季(第九集)あすへひとこと」)より



もうすぐ仲間入り
(中央公園)



Photo 広報担当者®

ひとりごと From editors

▶みんなの広場の「ひとこと」に寄せられるコメントが増えていきます。とりわけ今月は広報おうらへの感想がたくさんありました。ありがとうございます。取材や編集で頭を抱えているときに、コメントを見ると心が癒やされます。さらに「よし頑張ろう」って背中を押されている気になります。▶さて、今月号でお知らせしたとおり、邑楽町は今年の4月1日で昭和43年の町制施行から50周年を迎えます。来年度は記念事業が行われますので、広報おうらのカメラマンに撮られにきてください(笑)。▶町は50歳となりますが、私は折り返したばかり……。これからも喜んでいただける広報おうらをお届けできるように、皆さんからの声援?(コメント)を後押し(チカラ)に、頑張ります。(本澤)